

上野歯科医院
口腔診査状況
2016

* 歯科疾患実態調査

厚生労働省が6年に1度行う歯科疾患有病状況調査。

この調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、8020運動（歯科保健推進事業等）の種々の対策の効果についての検討や、健康日本21において設定した目標の達成度等の判定を行い、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

* **DMFT** ; 集団における永久歯列のう蝕罹患状態を知るために用いられる。

D : 未処置齲蝕歯

M : 喪失歯（う蝕が原因で抜去された歯）

F : 齲蝕が原因で処置された歯

* **d (em) ft** ; 乳歯列に用いられる。

d : う蝕乳歯（処置を必要とするう蝕乳歯）

e : 要抜去乳歯（要抜去歯、喪失歯に関係なく要抜去歯のみに用いる。）

m : 喪失乳歯（う蝕による喪失歯。特に早期喪失歯で5歳未満児に用いられる。）

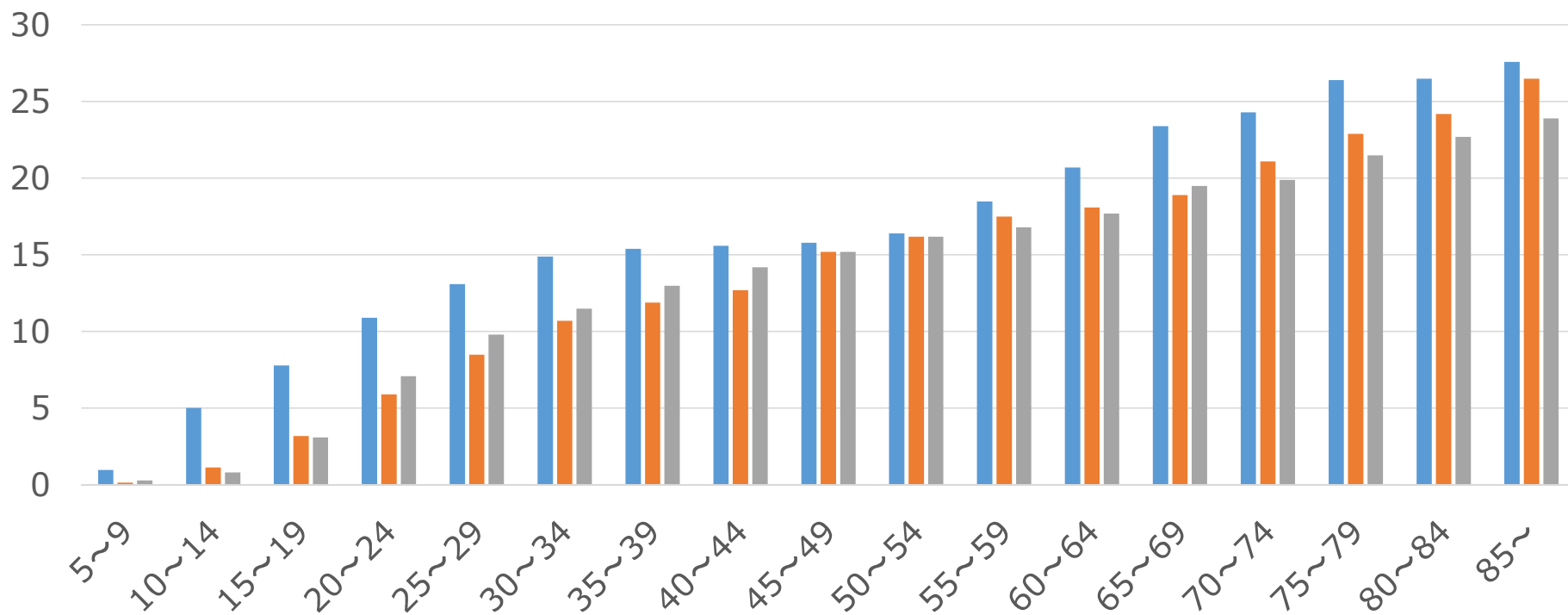
f : 処置乳歯（処置されたう蝕歯）

歯科疾患実態調査と当医院の比較

永久歯DMFT

(本)

■ 平成17年(全国) ■ 平成23年(全国) ■ 平成28年(当医院)



(歳)

歯科疾患実態調査と当医院の比較

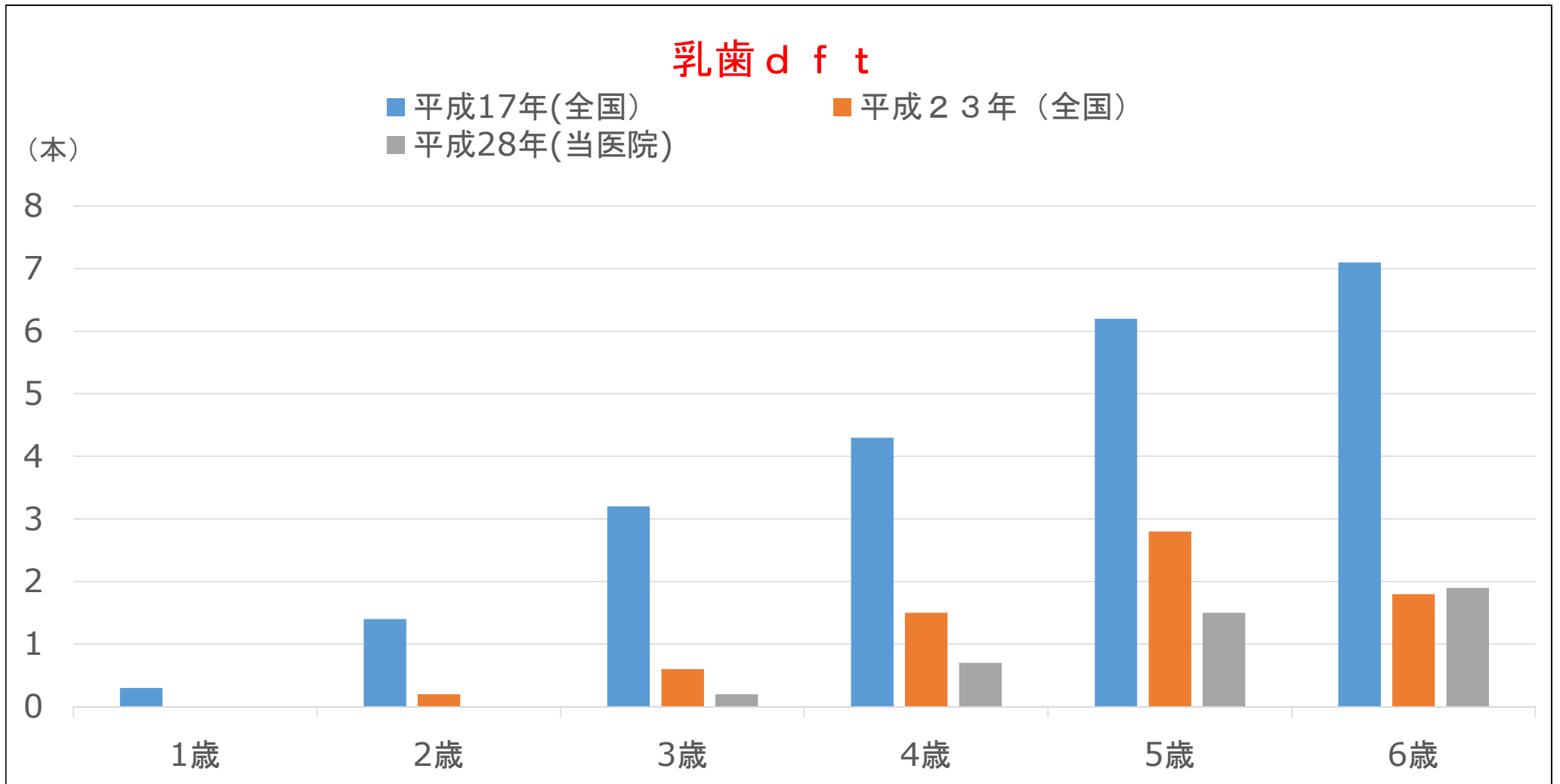
乳歯 d f t

■ 平成17年(全国)

■ 平成23年(全国)

■ 平成28年(当医院)

(本)

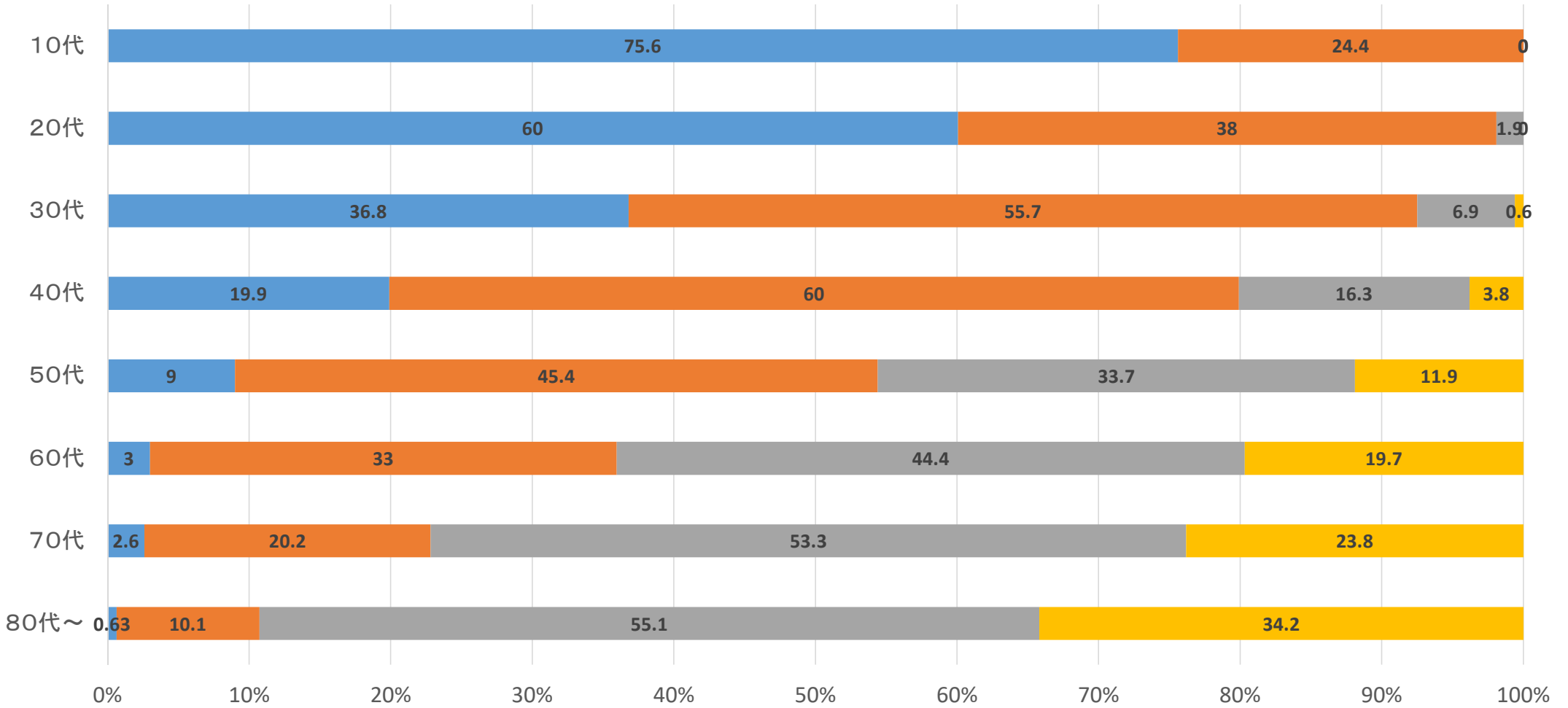


* 過去2回の歯科疾患実態調査と平成28年度当医院の比較・考察

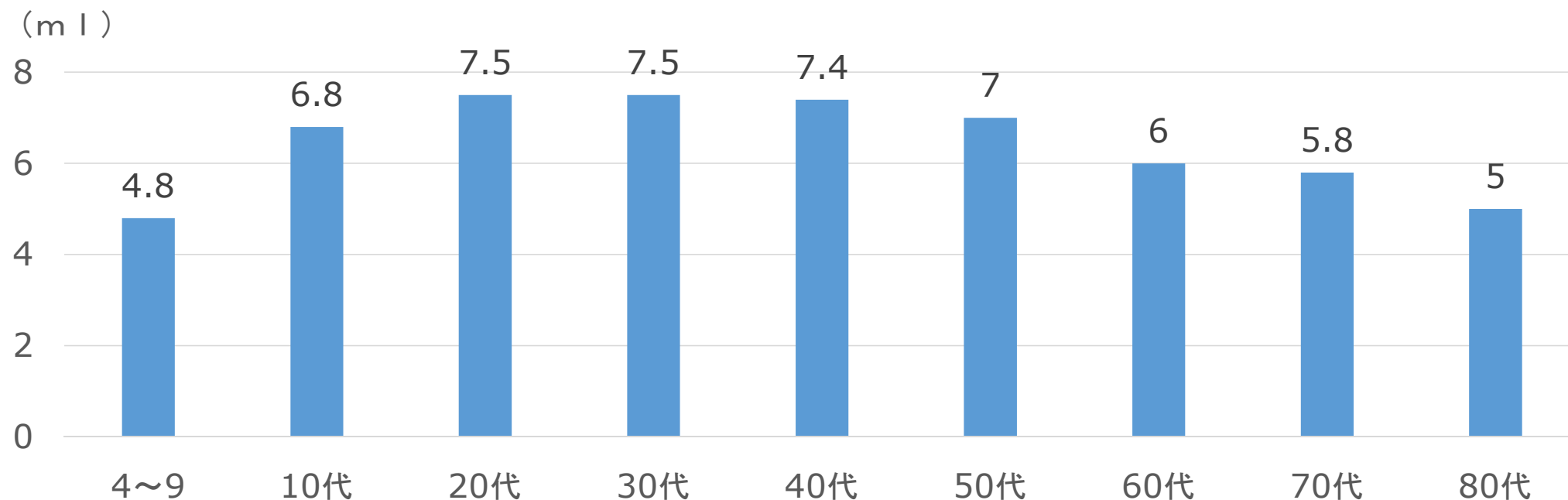
- 永久歯DMFTに関しては、20～44歳において23年度全国調査よりも高い数値となりました。
この結果を受けて、お口全部位の細かなレントゲン撮影や口腔内写真、唾液検査などの検査メンテナンスの重要性をより感じました。リスクによって異なりますが、当医院では基本3年に1度検査メンテナンスを行い疾患の見落としが無いよう努めていきます。
虫歯のリスクにより、メンテナンスの間隔も異なりますが、1年365日と考えるとお口を守る為には、やはりホームケアが最も重要となります！
いろいろと、歯科医院よりも優先するものが多い年代ではありますが今後1本でも多くご自身の歯でおいしくものが食べられるよう、私達も早期発見、虫歯になる前にこうした方がよいという患者様にあった予防法をお伝えしていきます。
- 乳歯dftに関しては、3歳以降より齲蝕に罹患する患者が存在し、改めてデンタルフロスによる歯間清掃の大切さを実感しました。今後は保護者の方々に正しいデンタルフロスの動かし方を指導させていただきます。そして、虫歯治療をしなくても済むよう一緒にお子さんの口腔内を守っていきましょう！

2016年度 歯周病リスク（初診時）

■ 健康 ■ 初期・歯肉炎 ■ 中程度 ■ 重度



唾液量（m l /5分） 2016年度 年代別比較



☆この様に年代別に唾液量を比較してみると、唾液検査を開始する4歳から30歳代までは唾液量が増加傾向にあり、40歳代を境に唾液量が低下していることがわかります。

加齢に伴って、唾液腺の機能低下と周囲筋力の低下により唾液分泌量が減少します。

また、高齢者の口腔乾燥についての多くは服用薬剤の副作用や飲水行動の制限などによると考えられています。唾液が少なくなると、齲蝕、歯周病だけでなく粘膜疾患や誤嚥性肺炎など様々な疾患が起こります。

唾液量を増やすには、かむ回数を増やし唾液分泌を促す、唾液腺マッサージを行う、こまめに水分補給をする、室内の温度・湿度に気をつける、保湿ジェルを活用するなどを行うとよいです。

* まとめ

いつもご来院ありがとうございます。

2016年度も当医院初診時の患者様のデータをもとに統計を行い、分析をしました。

しかし、この統計は全体の平均値であり、一人一人を見比べるとその差はとて大きいと実感いたしました。すなわち、口腔に対する`意識の差`が結果として現れているのです。

皆さまに生涯笑って健康に過ごしていただくために、お口の健康が全身の健康につながるということをよりいっそう伝えていかなければいけないと感じました。

そしてそのサポートを2017年度もさせていただければとおもいますのでよろしくお願ひします♪

上野歯科医院